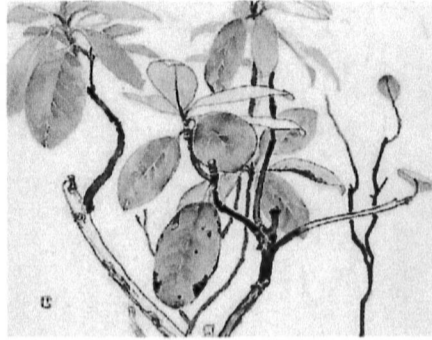


朝日歌壇俳壇



北村さゆり (ポスト前の植え込み)

永田和宏選

それくらい自分で考えようと言つたAIが、
いてもいいのに (久留米市) 春日 登
風呂のないアパートだった残業に背広のまま
で奮った銭湯 (東京都) 海老根 清
遺伝子のテロメア日々減るばかり「ICCO
CA」のやうにはいかないものか
(京都市) 中村 悦子
☆初挑戦吹き込みご飯夕食がものすくなく
つてしまった (富山市) 松田 梨子
本屋みな消えて跡地に居酒屋とパチンコ店の
駅前通り (鎌倉市) 遠藤 千草
庶民には金と命が乗っているようにしか見え
ないテニスの天秤 (高松市) 藤原貴美子
呼びかけはいつも名前で「あなた」って言いた
い気持ちでそっと抑えて (京田辺市) 藤田佳子
ふるさとの月山の春がおりたつ根曲がり竹を
焼きて酌むとき (仙台市) 沼沢 修
チェルノブイリをチョルノブイリに変えたつ
て人間は何も学んでいない(京都市) 中尾 素子
その席に野坂も五木も座つてたはるか彼方の
喫茶らんぶる (茅ヶ崎市) 品田 正俊

【評】春日さん、何でも教えてくれるAI。このままでは人間は……という危惧。海老根さん、ついでの間まで会社員はこんなだったと懐かしむのは私が論を取った所為か。中村さん、テロメアは命の回数券とも言われるが、増やす酵素もある。

川野里子選

銀色のサドルの高級自転車はおいでさぼりな
り娘の遺品 (市川市) 山崎 啓子
昏睡の母の頬より浮かび来る授業参観見守る
笑顔 (厚木市) 本庄 伸子
海の先にぼくが見つめていた世界はくを見つ
めていたのかモアイ (東京都) 石川 葵
空高くニール袋舞い上がるやうな仕事を辞
められたんだ (大阪市) 折戸みおこ
ぎゆうぎゆうのエレベーターに乗り込めば縄
張り求め人は上向く (つくば市) 小林 浦波
ミケランジェロ首を痛めて描き上げし天井画
みな首上げて見ぬ (東京都) 榎 泰文
葉脈の分岐分岐に神はあて二進法にて季節は
進む (神戸市) 松本 淳一
東口で息子を別れ西口で妻と別れてまたひと
りなり (東京都) 浅倉 修
ワイパーの隙間にじっと隠れ居る天道虫よ海
まで走らせ (生駒市) 島田 征二
彼太郎逝きて旧交復活す (茂原市) 麻生 稚子
青空 (茨城県) 藤原 雅子

【評】一首目、娘の澄潤とした若さだけが自転車に遺る。二首目、授業参観に徹する母の顔が昏睡の頬に重なるのだ。三首目、モアイ像に見つめられているという発想が雄大だ。十首目、谷川の代表作「空の青さをみつめている」とよる再会か。

佐佐木幸綱選

一年に一度の楽しみ八千代座で夢見心地の時
間を過ごす (熊本市) 矢野 貞子
日焼けした肌には淡色フレームを勧める眼鏡
の似合ふ眼鏡屋 (富山市) 村松 敦規
赤やんのかまきり蒲団で日向ぼっこ取り
込むよあしたもどろ (横浜市) 岡田 紀子
やかましう蛇がとびかう木の下でキウイの
雌雄教える夫 (大和高田市) 森村貴和子
四万十の沈下ゆめく軽トラのスピード速し歌
声挙がる (下関市) 内田 恒生
カツ丼を御馳走になりパティシエとなってし
まうて半世紀過ぐ (沼津市) 石川 義倫
瞳まじく砥部焼手にする老夫婦五月の青空大
陶器市 (東京都) 菅谷 敏子
ひさびさに姉を訪ねてピアノを弾く一月の沙
漠を共に歌いぬ (町田市) 山田 道子
思い切り泣ける居場所が欲しかった震災以後
もわたしは泣く (大船渡市) 富谷 英雄
使われないアブリを幾つか削削して軽くなり
五月のスマホ (橋本市) 秋月 晶江

【評】第一首、八千代座は熊本県山鹿市にある芝居小屋で、明治時代から歌舞伎興行が行われた。第二首、眼鏡屋の店員に取材して「眼鏡の似合ふ眼鏡屋」という表現のユニークさ。第三首、しゃべり言葉をうまく使った下句に注目。

高野公彦選

「トクリュー」の説明するにくりくりうごは
違つて刑事ます笑う取る (神戸市) 今井 修
人気がな土の沙灘は、砂粒と天空列車は拉轡を
目指しつ (中国) 馬場 公彦
水張れば田は広がりて鳥の影人のつばやき容
れてさめく (京都市) 八重樫妙子
ドローンがはかして「ラジオ」(ハリ) だった名
前が変わり凶暴になる (新潟市) 栗原 肇
トランプの陰に隠れてこそ「そと」人を殺して
いるネタニヤフ (五所川原市) 戸沢大二郎
☆初挑戦吹き込みご飯夕食がものすくなく
つてしまった (富山市) 松田 梨子
憲法とはほほ同い年疎開地の甲府の在に生まれ
てしより (東京都) 中沢 隆吉
あまりんという名のイチゴはほおって人生は
未知の宝庫だと知る (富山市) 松田 梨子
改選の風を感じてゐるだらうか「風通し」さ
る原爆死没者名簿 (鹿嶋市) 大熊佳世子
大勢が同じ方へ動く時感じる不気味さ大事
にした (東京都) 岩本 朗

【評】1首目、似ているが全く内容の違う言葉を並べて笑いを取る刑事のセンスの良さ。2首目、荒涼たるチベットの高原を走る列車を「天空列車」と表現したのが美しく印象的。作者は北京在住。3首目、水を張った田の、味わい深い美しさ。

長谷川權選

露の世の露がいとほし露のなか
(いわき市) 馬目 空
喜寿祝ふ富士も喜ぶ五月晴れ
(川崎市) 大森 実
人居れば脱ぐをためらふ竹の皮
(横濱市) 上田 義明
人間も酸化するなり五月雨
(宝塚市) 半井茉莉子
露の世の買取チラシばかりなり
(東京都世田谷区) 吉野 新一
ドライブは佐賀へ筑後へ麦の秋
(福岡市) 満重 勇二
蛙鳴く冷たき夜の匂ひかな
(札幌市) 金澤 憲子
フランスの春届きけり俳句欄
(八王子市) 額田 浩文
トランプはもうケッコウとカッコウ鳴く
(八尾市) 宮川 一樹
ふて寝(そぞろ)のつししみ走り梅雨
(仙台市) 松岡 三男

【評】一席、やがて消え去るものへの愛情。日本語の「いとほし」。二席、「富士も喜ぶ」とはめでたい。ご自分のことながら。三席、待てば、なかなか落ちない。立ち去れば、はらりと落ちる。十句目、家族への気の使い方。見習うべきか。

大串章選

万緑や被爆せし木もその中に
(長崎市) 佐々木光博
草笛や軍国少年九十路
(広島市) 大林 實
忘れたきこと脱ぎすてる更衣
(いわき市) 佐藤 朱夏
戦禍の地獄ひ巡らせ草を引く
(名古屋) 後藤 素子
新茶波む戦後の暮らし聞きながら
(村上市) 鈴木 正芳
終点の境界集落びわ熟す
(新座市) 丸山 巖子
恙なき日を借しみて新茶波む
(長野市) 縣 展子
父母のなき部屋に藤椅子残りけり
(相模原市) はやし 央
表秋の野や気まぐれに曲がけ行く
(山口市) 林 朗
手に触れて熱き石碑や沖繩忌
(八王子市) 長尾 博

【評】第1句、昭和20年8月9日長崎に原子爆弾が投下された。長崎にお住まいの作者ならではの傑作。第2句、昔の軍国少年も今や90歳、草笛が明るく鳴りひびく。第3句、正にその通り。衣服を着かえて嫌な事は全て忘れましょう。

高山れおな選

夏場所へ海と山との申し合ひ
(横浜市) 穴沢 秋彦
雲の峰羊となつて降りて来る
(新座市) 丸山 巖子
今は昔海市のごとしニュータウン
(埼玉県浦和市) 鈴木 清三
本懐を遂げ空蟬のがらんとす
(岐阜県津市) 野原 武
あと少し人間である更衣
(金沢市) 岩本 卓夫
箱庭に二人の男握手せり
(八王子市) 額田 浩文
表秋のゆきつくとくろ日本海
(長野市) 縣 展子
市街地に軌道あり春の熊
(水戸市) 久信史夫
耕さぬ母の畑に雉の巢
(多摩市) 田中 久幸
シスターの白きカラーや聖五月
(島原市) 岡崎 潤子

【評】穴沢さん。申し合ひは勝ち抜き戦式のぶつかり稽古。西殿名海や山を持ち出す相撲の句はよくあるが、これはまるで神話のような雄大さ。丸山さん。牧場の向こうに雲の峰。童話の味わい。鈴木さん。町の老いを海市の頼りなさで比喩。

小林貴子選

むつちり押し合ふ五つ穂の子
(武蔵野市) 内藤 花六
擬花のねぢれるほどの情みとは
(東京都足立区) 無京 水彦
父の日やあまり呑むなと仏前に
(岩手県大槌町) 佐々木松男
緑蔭や尻ポケットに文庫本
(印西市) 伊藤 博康
薔薇園に妻見失ふ唇さかな
(郡山市) 佐藤 敏勝
息巻きのできない子にも夏は来ぬ
(富山市) 村松 敦規
廃居煉食へめ節今日も掘る
(いわき市) 小野 康平
毛虫には毛虫の覚悟深夜行
(塩尻市) 田原 章弘
宇宙から読めるやうにと若布干す
(所沢市) 藤原 貴樹
少年の剛球はんと鳴る五月
(横浜市) 下島 章寿

【評】一句目、日々育つ燕の子。「むつちり」の語に命の充実感あり。二句目、擬花がゆめゆめにねじれているとしたら、気の毒。三句目、父はあの世に暮らしているが、生前と同様に体を心配する。優しい。四句目、夏木の下で読書する快さ。

うたをよむ言葉のテクスチャー

近年、青松輝・瀬口真司ら若手歌人を中心に「テクスチャー」という概念が注目を集めている。それは意味に還元されない言葉の響きや手触り、文脈や歴史性など言葉の質感の総体だ。この質感はわたしたちの身体が有する感覚や知識、経験と結びつき、言葉の届き方に作用する。どうしても言わなければならないことが初夏の晩夏のブル・サイドに

「青松輝」4「
下句は意味だけで言えば、初夏や晩夏
誰しもが一度は、たとえ美しい景色
を見て、思わず声を漏らした経験がある

だろ。ふあ、ふあ、という言葉はそう詠嘆する時の感動を呼び起す。その気分に浸って歌を詠めば、まるでひとりの鳥み(たい)の比喩が一層、感情的に思われる。春の夜の夢の浮橋とたえして峰に別れる横雲の空
藤原定家(『新古今和歌集』所収)
(春)夜/夢/別れの語が無数の名歌を参照し、この歌自体が秀歌というテクスチャーを纏う。歌全体の姿は妖艶と捉えられてきたが、個々の言葉のテクスチャーに注目すると、互いに作用して歌の姿を形成する、より細かなダイナミズムを造ることができたらう。(短歌評論家)

栗木京子歌集「夢のあとさき」 2022年初春から4年の間に詠んだ430首を収めた第12歌集。〈ヒルも船も石原プロが爆破する時代ありにき平和だつたか〉(本阿弥書店・2750円)

◇朝日歌壇 入選取り消し 5月31日付の歌壇に掲載した「藤(よもぎ)独活(うど)藤(せんまい)藤(わらび)野蔞(のびる)藤(ふき)春の山菜の漢字いかめし」は、類似した先行作品があり、入選を取り消します。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が印刷する場合があり。郵便での投稿は無地のほか1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます(週に2作品まで)。QRコードから。

出来事

6日(土) ■「飛鳥・藤原の宮都」(奈良県)が、ユネスコ(国連教育科学文化機関)の世界遺産に登録される見通しであることが明らかになった



6/6/6/12

6日(土) ■テニスの全仏オープンで、小田凱人が車いすの部の男子シングルスで優勝。国枝慎吾に並ぶ同種目最多の4連覇を達成した

7日(日) ■ラグビーのリーグワンで、神戸が東京ベイを破り、初優勝。神戸製鋼として前身のトップリーグを2018年に制して以来の日本一に

8日(月) ■衆参の正副議長が皇族数の確保策に関し「立法院の総意」案を示す。森英介衆院議長は皇位継承のあり方に言及。10日、政府に提示

8日(月) ■自民党総裁や衆院議長を務めた河野洋平氏が死去。89歳だった。自民のハト派の代表格で、初めての「野党自民党」総裁だった

9日(火) ■政府による安保関連3文書の年内改定に向け、自民党は提言をまとめた。防衛費増の必要性や「新しい戦い方」への対応を盛り込んだ

10日(水) ■米アンソロピックが「クロード・ミュトス」と同等性能のAIモデル「クロード・フェイブル5」を発売。しかし13日に提供を停止

11日(木) ■スペインのサグラダ・ファミリア教会で「イエスの塔」の完成を記念する式典が行われた。世界で最も高い教会となった

12日(金) ■サッカーワールドカップ北中米大会が開幕した。史上最多の48チームが参加。日本代表の初戦は14日(日本時間15日)のオランダ戦

■国の基幹ロケット「H3」が半年ぶりの打ち上げに成功。新しい「30形態」試験機で、H3として補助ブースターなしは初めて

15日(月) フランスで主要7カ国(G7)首脳会議。17日まで(現地時間)

16日(火) 日本銀行の金融政策決定会合最終日

17日(水) 北海道・知床の遊覧船沈没事故で運輸会社社長に判決
米連邦公開市場委員会(FOMC)最終日(現地時間)
18日(木) ブリュッセルで欧州連合(EU)首脳会議
ゴルフの全米オープン開幕

主な予定

6/14/6/20

NEWS 2WEEKS

日付は原則日本時間